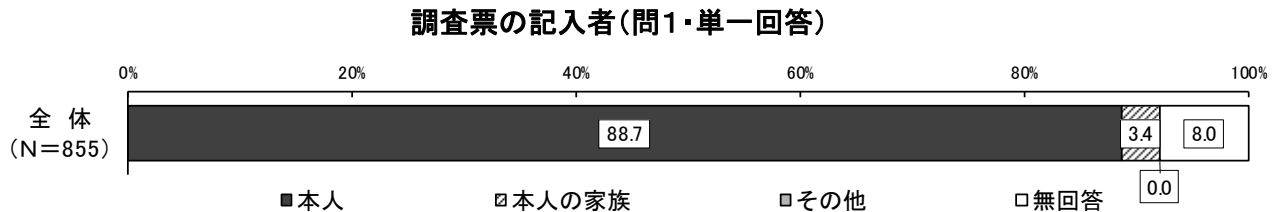


2 若年者調査

(1) 基本属性

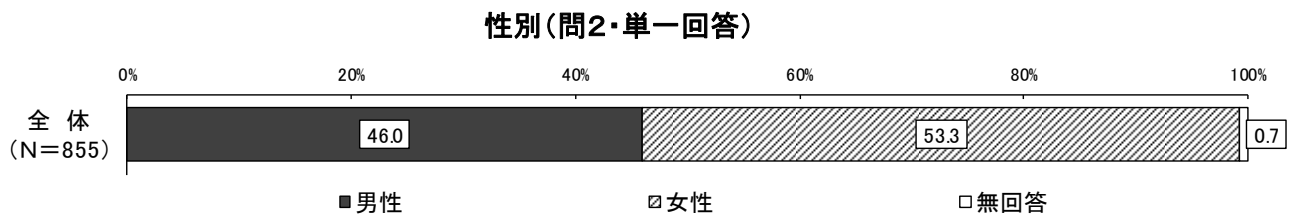
①調査票の記入者（問1・単一回答）

調査票の記入者は、「本人」が88.7%、「本人の家族」が3.4%となっている。



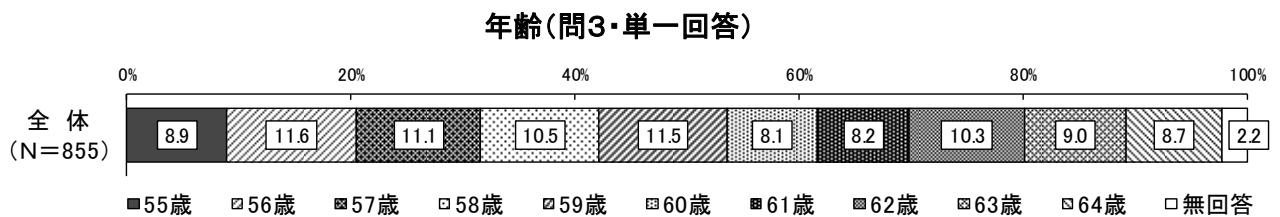
②性別（問2・単一回答）

性別は、「男性」が46.0%、「女性」が53.3%となっている。



③年齢（問3・単一回答）

年齢は、「56歳」（11.6%）が最も多く、次いで「59歳」（11.5%）、「57歳」（11.1%）、「58歳」（10.5%）となっている。



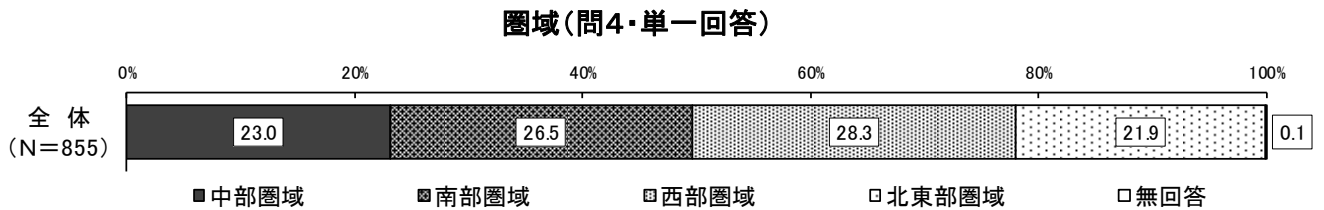
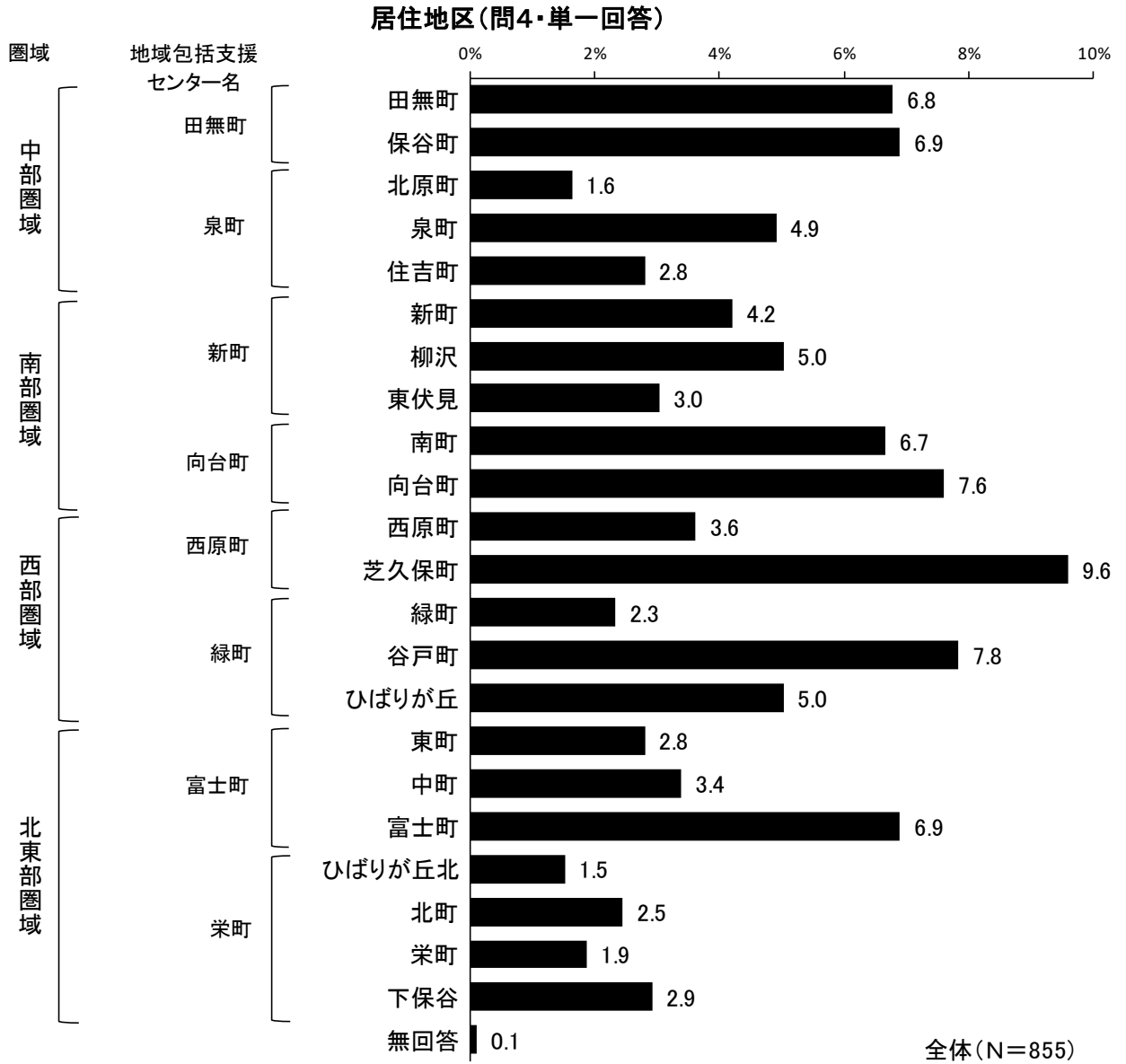
第2章 各調査の結果

2 若年者調査

④居住地区（問4・単一回答）

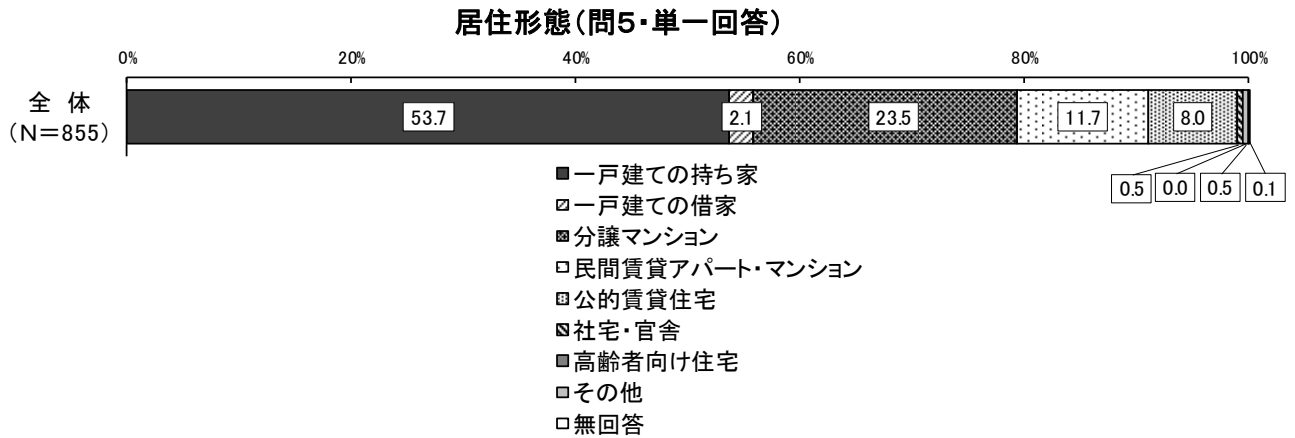
居住地区は、「芝久保町」（9.6%）が最も多く、「谷戸町」（7.8%）、「向台町」（7.6%）、「保谷町」及び「富士町」（ともに6.9%）と続いている。

圏域で見ると、「西部圏域」（28.3%）が最も多く、「南部圏域」（26.5%）、「中部圏域」（23.0%）、「北東部圏域」（21.9%）と続いている。



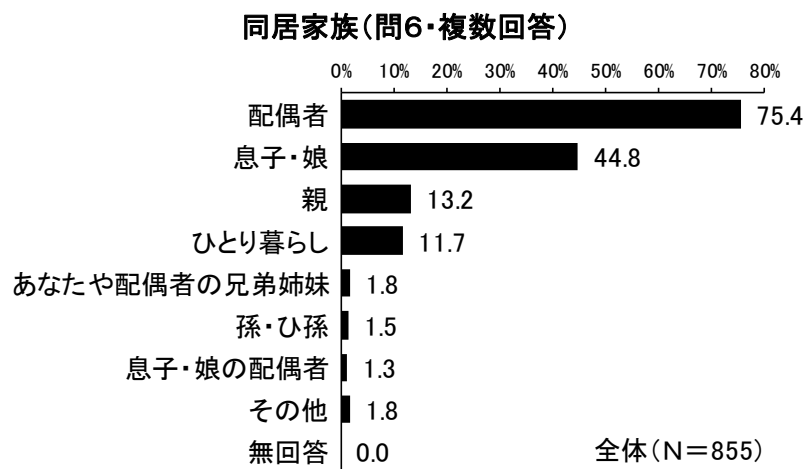
⑤居住形態（問5・単一回答）

居住形態は、「一戸建ての持ち家」（53.7%）が最も多く、「分譲マンション」（23.5%）、「民間賃貸アパート・マンション」（11.7%）、「公的賃貸住宅」（8.0%）と続いている。



⑥同居家族（問6・複数回答）

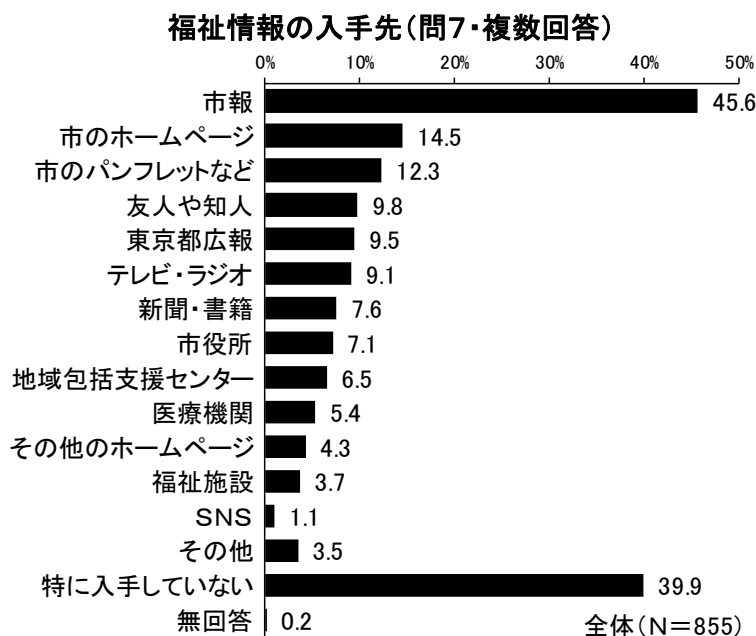
同居家族は、「配偶者」（75.4%）が最も多く、「息子・娘」（44.8%）、「親」（13.2%）、「ひとり暮らし」（11.7%）と続いている。



(2) 日頃の生活

①福祉情報の入手先 (問7・複数回答)

福祉情報の入手先は、「市報」(45.6%)が最も多く、「特に入手していない」(39.9%)、「市のホームページ」(14.5%)、「市のパンフレットなど」(12.3%)と続いている。



性・年齢別では、いずれの年代も男性は「特に入手していない」が最も多く、女性は「市報」が最も多い。

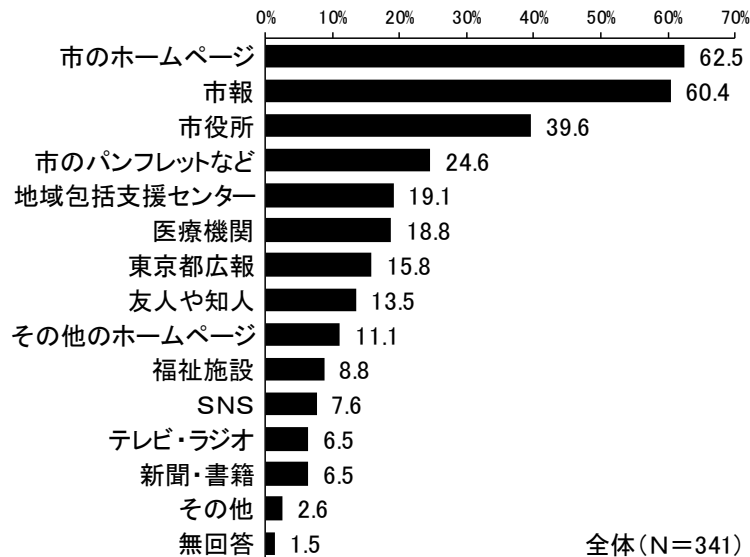
【性・年齢別】福祉情報の入手先(問7・複数回答)

		特に入手していない	市報	東京都広報	市のパンフレットなど	市のホームページ	その他のホームページ	テレビ・ラジオ	新聞・書籍	SNS	市役所	医療機関	福祉施設	地域包括支援センター	友人や知人	その他	無回答
全体 (N=855)		39.9	45.6	9.5	12.3	14.5	4.3	9.1	7.6	1.1	7.1	5.4	3.7	6.5	9.8	3.5	0.2
男性	55～59歳 (N=217)	48.8	36.4	8.3	6.9	14.7	3.2	6.0	4.6	1.4	6.0	3.2	3.2	3.2	3.7	4.1	0.0
	60～64歳 (N=168)	47.6	36.9	8.3	10.7	13.1	3.6	3.0	4.8	0.0	7.7	4.8	1.8	4.8	6.0	1.2	0.6
女性	55～59歳 (N=239)	34.3	53.1	9.2	13.4	18.0	6.7	9.6	8.4	2.1	5.4	7.1	5.9	10.0	13.4	6.3	0.0
	60～64歳 (N=207)	29.5	55.1	12.6	17.9	11.6	3.9	17.4	13.0	0.5	9.7	6.8	3.9	7.7	15.0	1.4	0.5
無回答 (N=24)		50.0	33.3	4.2	12.5	12.5	0.0	4.2	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	4.2	12.5	4.2	0.0

②情報を入手していない人が希望する福祉情報の入手先（問7付問・複数回答）

情報を入手していない人（問7で「特に入手していない」と回答した人）が希望する情報の入手先は、「市のホームページ」（62.5%）が最も多く、「市報」（60.4%）、「市役所」（39.6%）、「市のパンフレットなど」（24.6%）と続いている。

情報を入手していない人が希望する福祉情報の入手先(問7付問・複数回答)



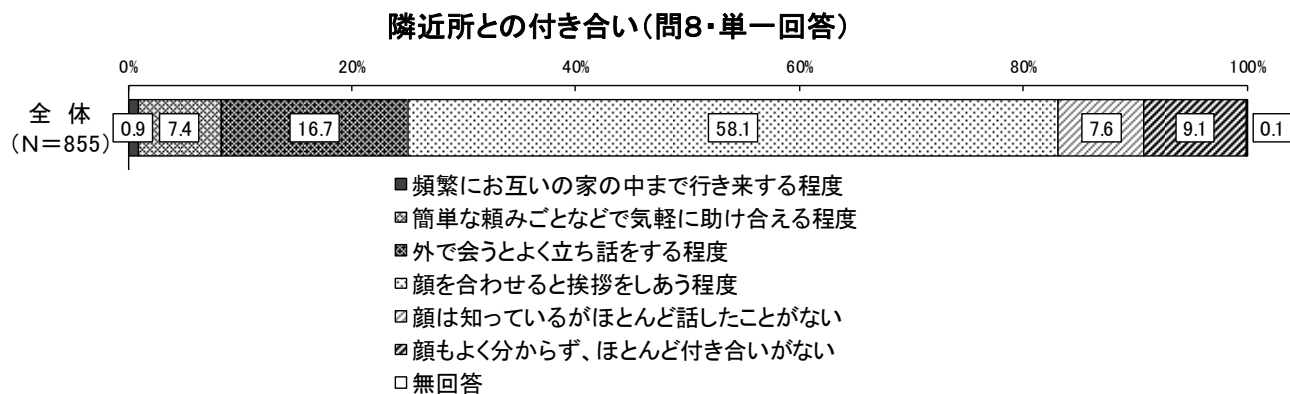
性・年齢別では、男性は「市のホームページ」が最も多く、女性は55～59歳では「市のホームページ」（63.4%）が、60～64歳では「市報」（70.5%）が多い。

【性・年齢別】情報を入手していない人が希望する福祉情報の入手先(問7付問・複数回答) (%)

		市報	東京都広報	市のパンフレットなど	市のホームページ	その他のホームページ	テレビ・ラジオ	新聞・書籍	SNS	市役所	医療機関	福祉施設	地域包括支援センター	友人や知人	その他	無回答
全体 (N=341)		60.4	15.8	24.6	62.5	11.1	6.5	6.5	7.6	39.6	18.8	8.8	19.1	13.5	2.6	1.5
男性	55～59歳 (N=106)	59.4	18.9	17.9	67.9	9.4	6.6	5.7	10.4	46.2	9.4	3.8	4.7	8.5	1.9	0.9
	60～64歳 (N=80)	58.8	15.0	25.0	63.8	8.8	3.8	7.5	6.3	26.3	15.0	5.0	15.0	8.8	5.0	1.3
女性	55～59歳 (N=82)	59.8	13.4	23.2	63.4	20.7	6.1	4.9	11.0	42.7	26.8	18.3	41.5	23.2	1.2	1.2
	60～64歳 (N=61)	70.5	16.4	41.0	52.5	4.9	11.5	9.8	0.0	45.9	32.8	11.5	23.0	18.0	1.6	0.0
無回答 (N=12)		33.3	8.3	8.3	50.0	8.3	0.0	0.0	8.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	16.7

③隣近所との付き合い（問8・単一回答）

隣近所との付き合いは、「顔を合わせると挨拶をしあう程度」（58.1%）が最も多く、「外で会うとよく立ち話をする程度」（16.7%）、「顔もよく分からず、ほとんど付き合いがない」（9.1%）、「顔は知っているがほとんど話したことがない」（7.6%）と続いている。



性・年齢別でみると、男女ともに「顔を合わせると挨拶をしあう程度」が最も多く、女性は「外で会うとよく立ち話をする程度」や「簡単な頼みごとなどで気軽に助け合える程度」など挨拶以上の関係もみられる一方、男性では「顔もよく分からず、ほとんど付き合いがない」や「顔は知っているがほとんど話したことがない」が合わせて20%を超えている。

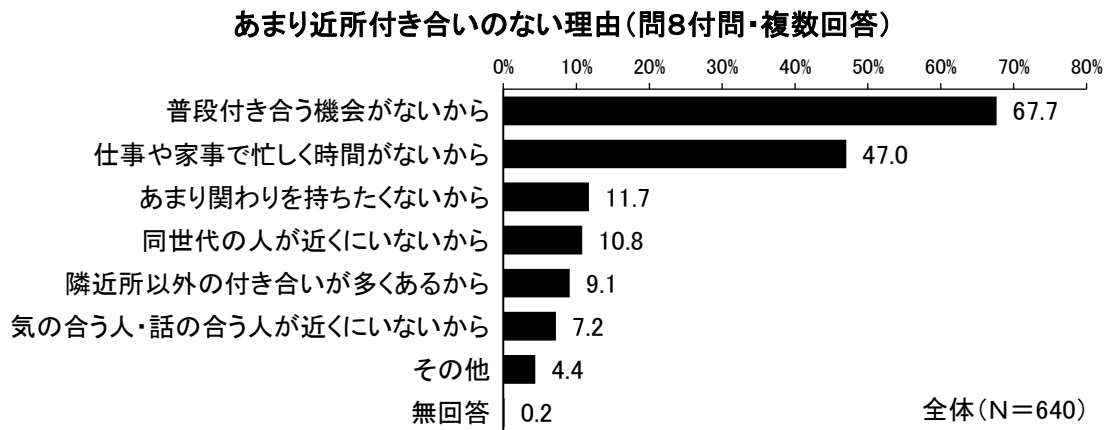
【性・年齢別】隣近所との付き合い(問8・単一回答)

(%)

	頻りに簡	るく外	うと顔	な話る顔	などら顔	無	
	度行の頻	程にと簡	るく外	うと顔	な話る顔	などら顔	無
	度行の頻	程にと簡	るく外	うと顔	な話る顔	などら顔	無
全体 (N=855)	0.9	7.4	16.7	58.1	7.6	9.1	0.1
男性							
55～59歳 (N=217)	0.5	4.1	14.3	59.0	11.5	10.6	0.0
60～64歳 (N=168)	0.0	6.0	11.3	61.3	9.5	11.9	0.0
女性							
55～59歳 (N=239)	0.8	7.9	19.7	59.4	4.6	7.5	0.0
60～64歳 (N=207)	1.9	11.6	19.8	56.0	4.8	5.8	0.0
無回答 (N=24)	4.2	4.2	20.8	33.3	12.5	20.8	4.2

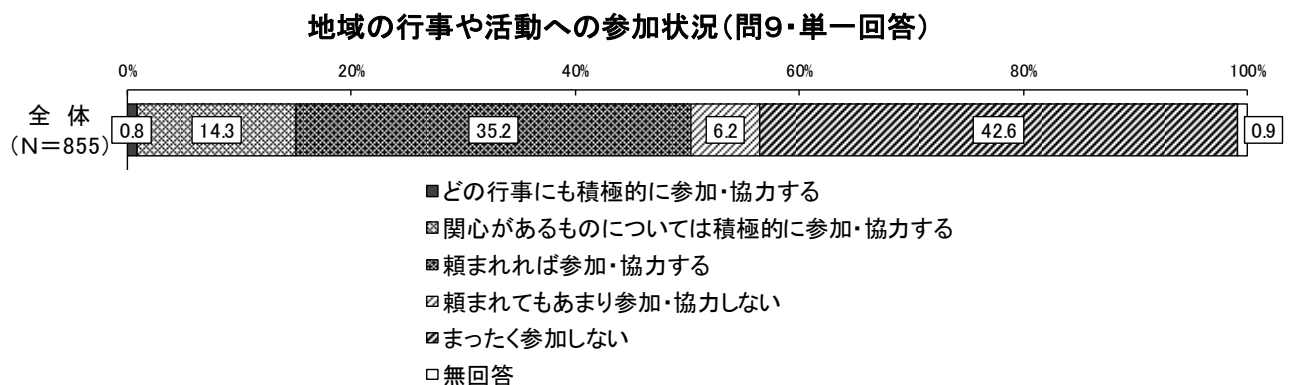
④あまり近所付き合いのない理由（問8付問・複数回答）

あまり近所付き合いがない人（問8で「顔を合わせると挨拶をしあう程度」「顔は知っているがほとんど話したことがない」「顔もよく分からず、ほとんど付き合いがない」と回答した人）の理由は、「普段付き合う機会がないから」（67.7%）が最も多く、「仕事や家事で忙しく時間がないから」（47.0%）、「あまり関わりを持ちたくないから」（11.7%）、「同世代の人が近くにいないから」（10.8%）と続いている。



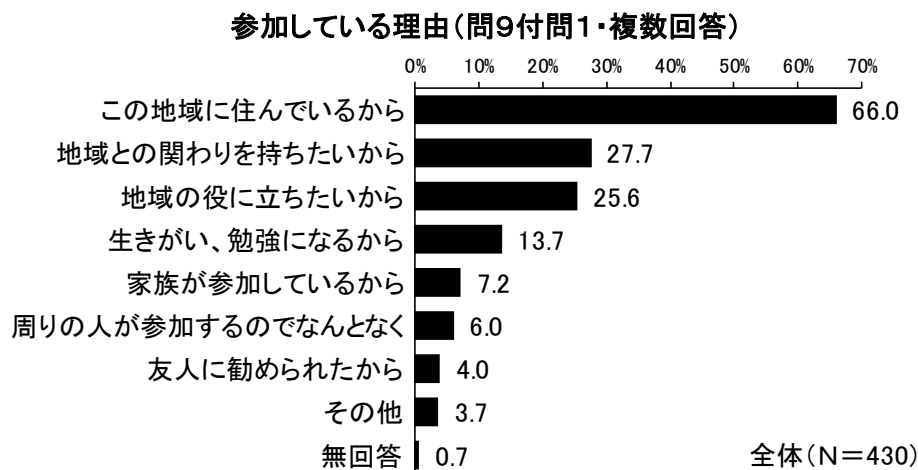
⑤地域の行事や活動への参加状況（問9・単一回答）

地域の行事や活動への参加状況は、「まったく参加しない」（42.6%）が最も多く、「頼まれれば参加・協力する」（35.2%）、「関心があるものについては積極的に参加・協力する」（14.3%）、「頼まれてもあまり参加・協力しない」（6.2%）と続いている。



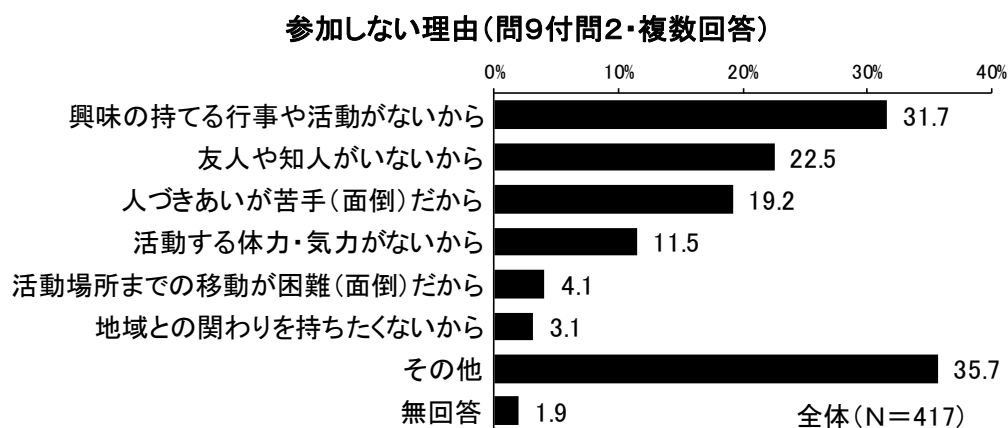
⑥参加している理由（問9付問1・複数回答）

地域の行事や活動に参加している人（問9で「どの行事にも積極的に参加・協力する」「関心があるものについては積極的に参加・協力する」「頼まれれば参加・協力する」と回答した人）の理由は、「この地域に住んでいるから」（66.0%）が最も多く、「地域との関わりを持ちたいから」（27.7%）、「地域の役に立ちたいから」（25.6%）と続いている。



⑦参加しない理由（問9付問2・複数回答）

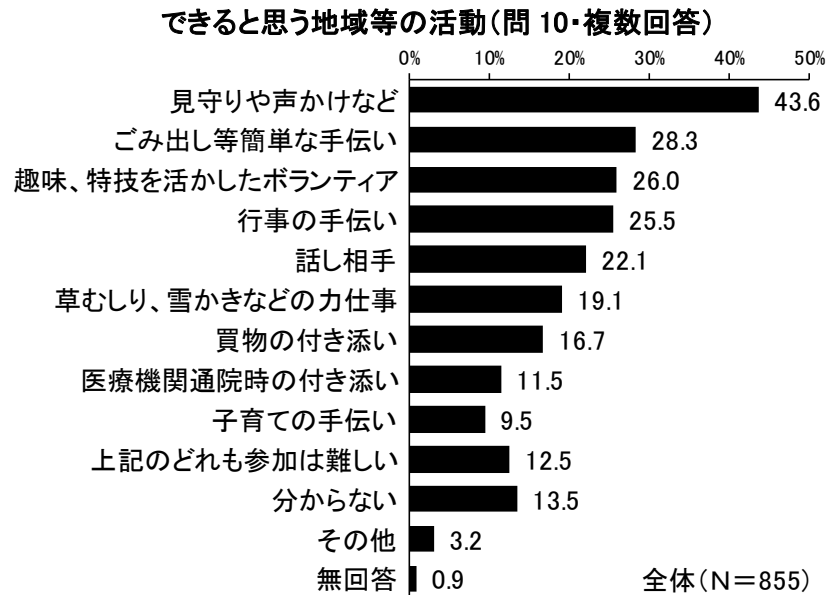
地域の行事や活動に参加しない人（問9で「頼まれてもあまり参加・協力しない」「まったく参加しない」と回答した人）の参加しない理由は、「興味の持てる行事や活動がないから」（31.7%）が最も多く、「友人や知人がいないから」（22.5%）、「人づきあいが苦手（面倒）だから」（19.2%）、「活動する体力・気力がないから」（11.5%）と続いている。



[その他の記述] 仕事が忙しい、時間がない(合わない)、活動を知らない、など

⑧できると思う地域等の活動（問10・複数回答）

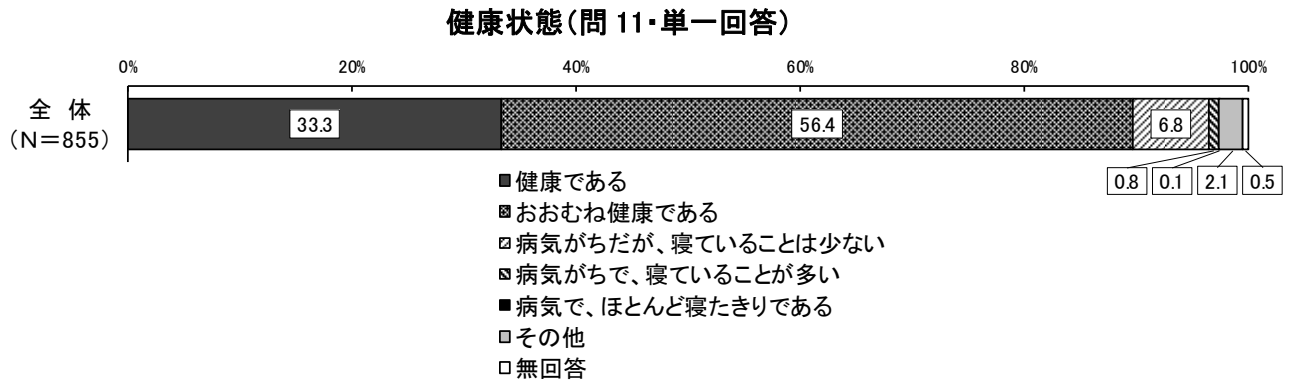
できると思う地域等の活動は、「見守りや声かけなど」（43.6%）が最も多く、「ごみ出し等簡単な手伝い」（28.3%）、「趣味、特技を活かしたボランティア」（26.0%）、「行事の手伝い」（25.5%）と続いている。



(3) 健康管理

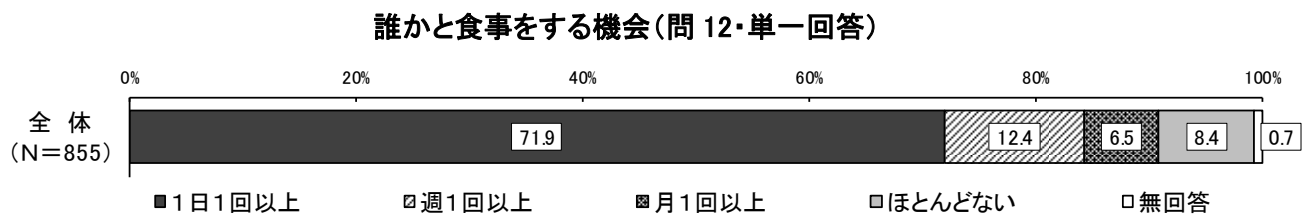
①健康状態 (問 11・単一回答)

健康状態は、「おおむね健康である」(56.4%)が最も多く、「健康である」(33.3%)、「病気がちだが、寝ていることは少ない」(6.8%)と続いている。



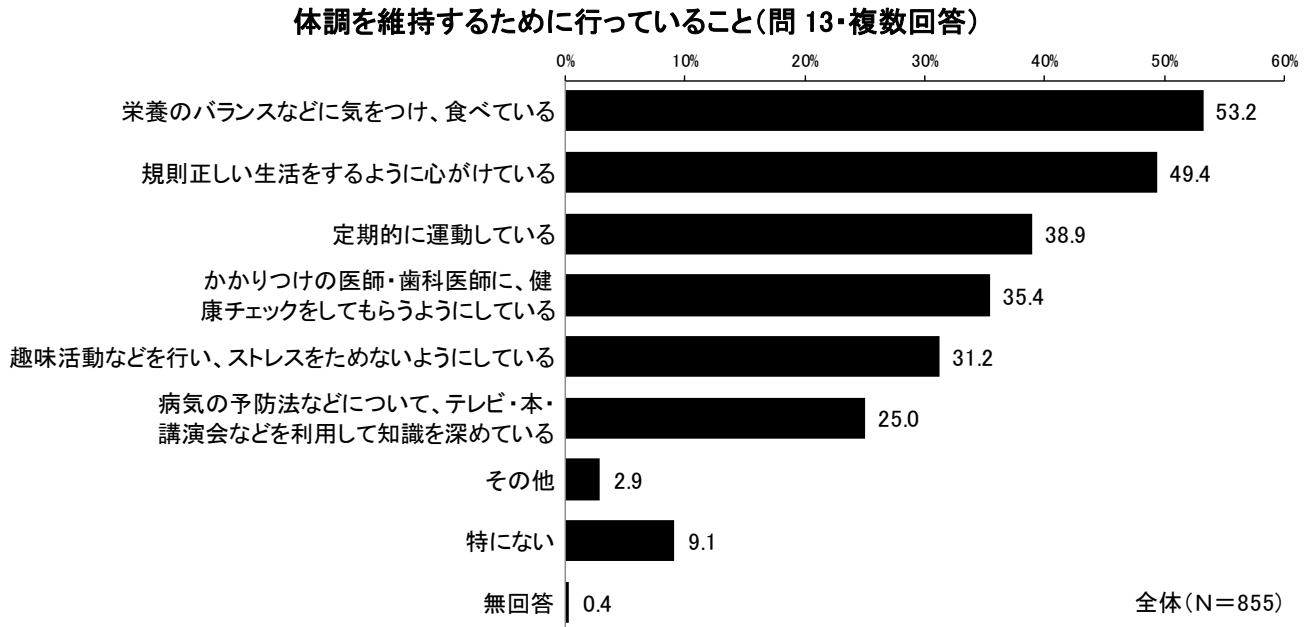
②誰かと食事をする機会 (問 12・単一回答)

誰かと食事をする機会は、「1日1回以上」(71.9%)が最も多く、「週1回以上」(12.4%)と続いており、「ほとんどない」は8.4%となっている。



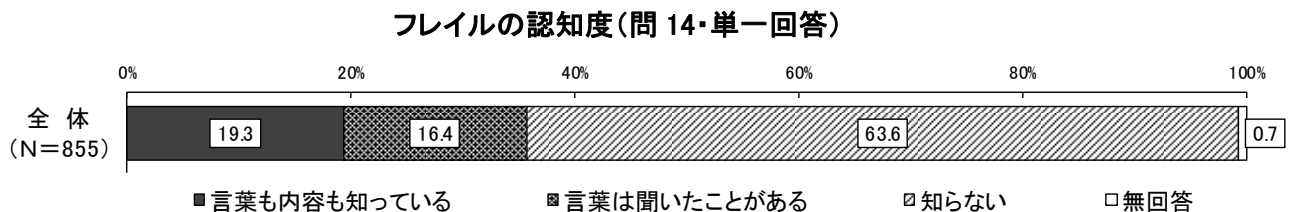
③体調を維持するために行っていること（問13・複数回答）

体調を維持するために行っていることは、「栄養のバランスなどに気をつけ、食べている」（53.2%）が最も多く、「規則正しい生活をするように心がけている」（49.4%）、「定期的に運動している」（38.9%）と続いている。

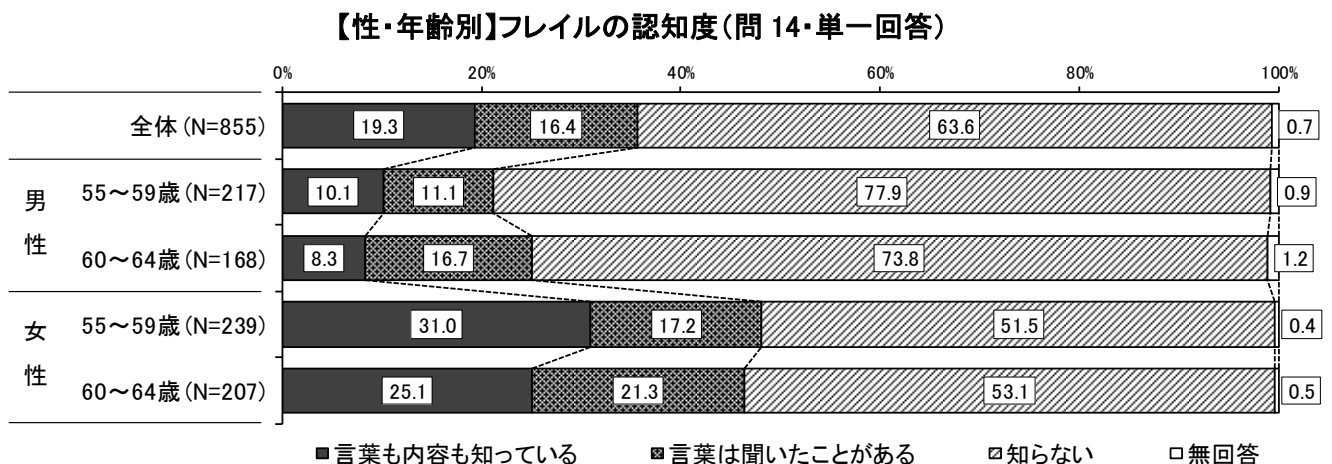


④フレイルの認知度（問14・単一回答）

フレイルの認知度は、「言葉も内容も知っている」が19.3%、「言葉は聞いたことがある」が16.4%、「知らない」が63.6%となっている。



性・年齢別では、男性は「知らない」の割合が女性よりも多く、70%を超えている。「言葉も内容も知っている」の割合は、女性の方が多くなっている。

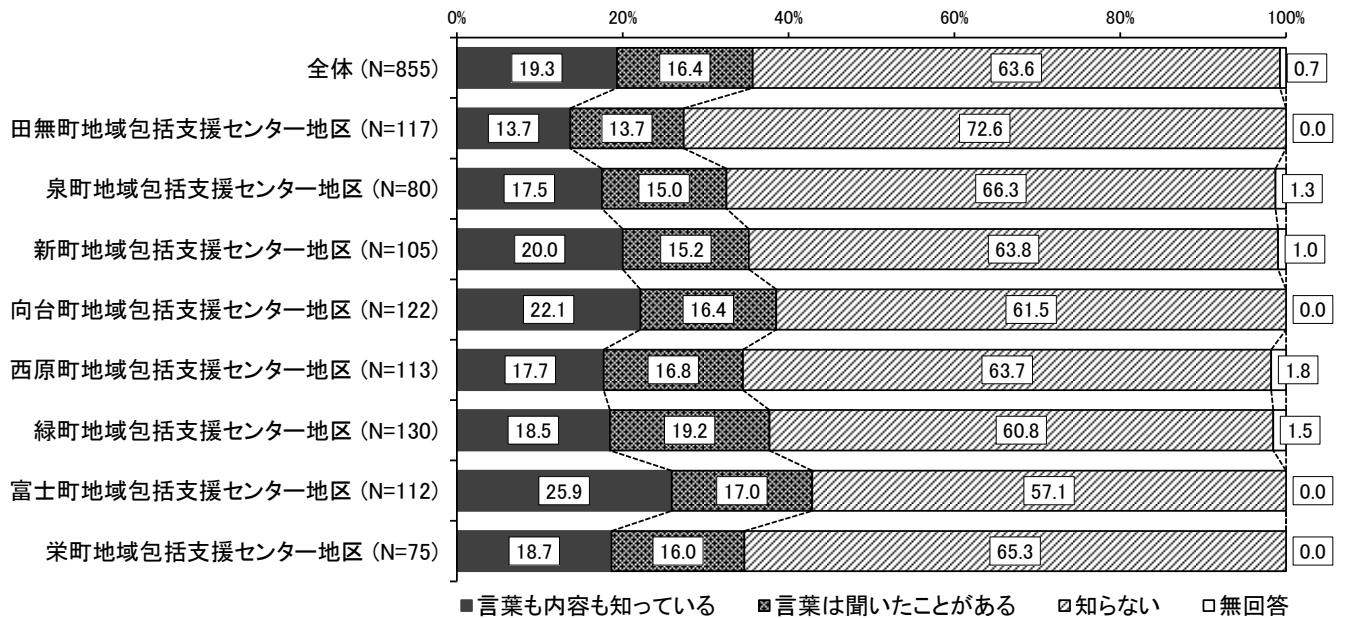


第2章 各調査の結果

2 若年者調査

地域包括支援センター地区別では、いずれのセンターも「知らない」が多く、過半数となっている。「言葉も内容も知っている」が最も多いのは富士町（25.9%）で、最も少ない田無町では「言葉も内容も知っている」（13.7%）に対し「知らない」が72.6%と5倍以上になっている。

【地域包括支援センター地区別】フレイルの認知度(問14・単一回答)



(4) 医療の状況

① かかりつけ医の有無 (問 15・単一回答)

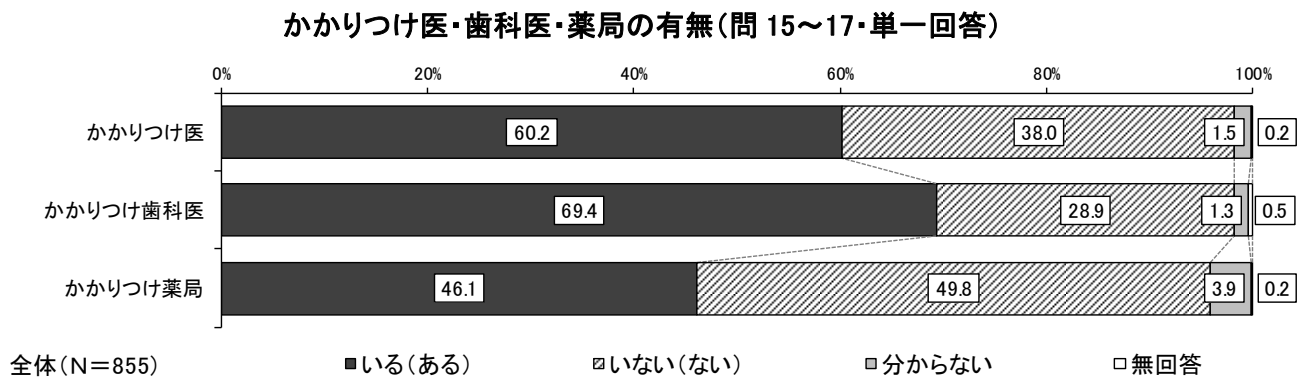
かかりつけ医の有無は、「いる」が60.2%、「いない」が38.0%となっている。

② かかりつけ歯科医の有無 (問 16・単一回答)

かかりつけ歯科医の有無は、「いる」が69.4%、「いない」が28.9%となっている。

③ かかりつけ薬局の有無 (問 17・単一回答)

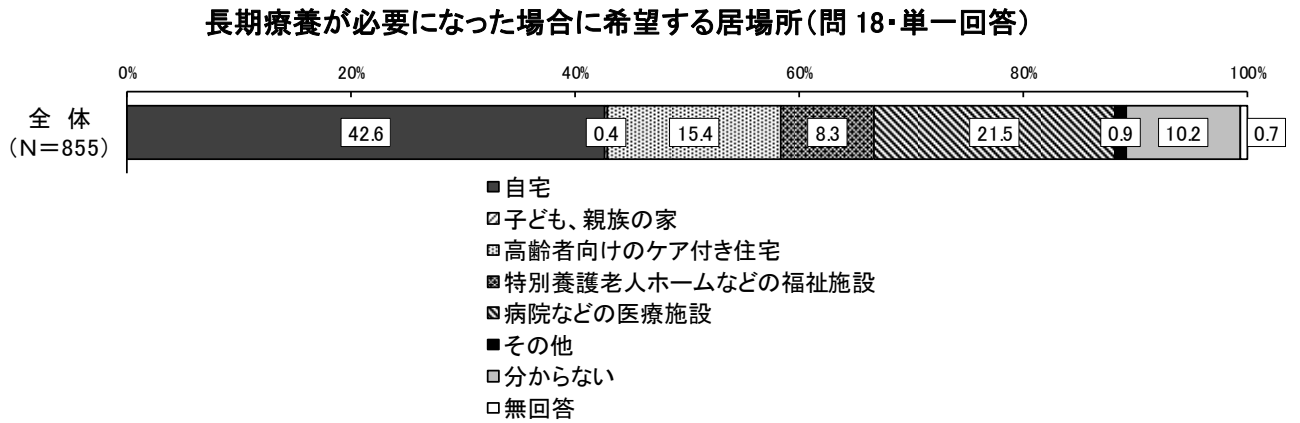
かかりつけ薬局の有無は、「ある」が46.1%、「ない」が49.8%となっている。



(5) 今後の希望

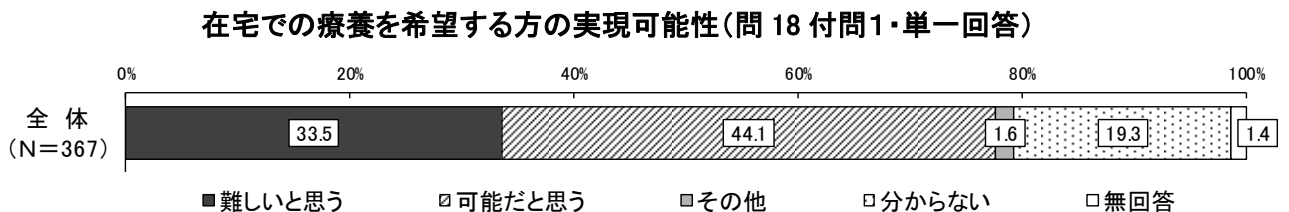
①長期療養が必要になった場合に希望する居場所（問18・単一回答）

長期療養が必要になった場合に希望する居場所は、「自宅」（42.6%）が最も多く、「病院などの医療施設」（21.5%）、「高齢者向けのケア付き住宅」（15.4%）と続いている。



②在宅での療養を希望する方の実現可能性（問18付問1・単一回答）

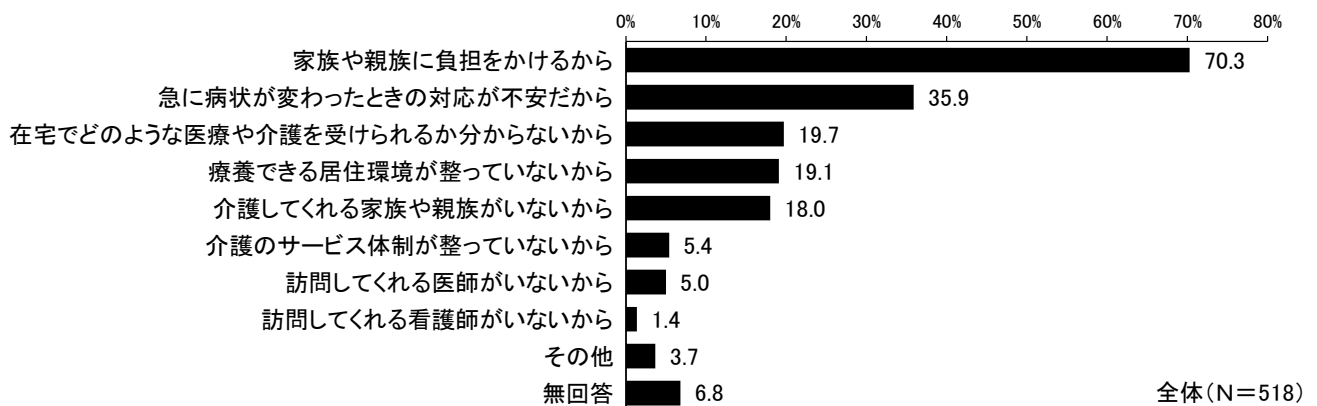
在宅での療養を希望する人（問18で「自宅」「子ども、親族の家」と回答した人）の実現可能性は、「可能だと思う」が44.1%、「難しいと思う」が33.5%、「分からない」が19.3%となっている。



③在宅での療養を希望しない又は希望するが難しいと思う理由（問 18 付問 2・複数回答（3つまで））

在宅での療養を希望しない又は希望するが難しいと思う人（問 18 で「高齢者向けのケア付き住宅」「特別養護老人ホームなどの福祉施設」「病院などの医療施設」「その他」と回答した人及び問 18 付問 1 で「難しいと思う」と回答した人）の理由は、「家族や親族に負担をかけるから」（70.3%）が最も多く、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」（35.9%）、「在宅でどのような医療や介護を受けられるか分からないから」（19.7%）と続いている。

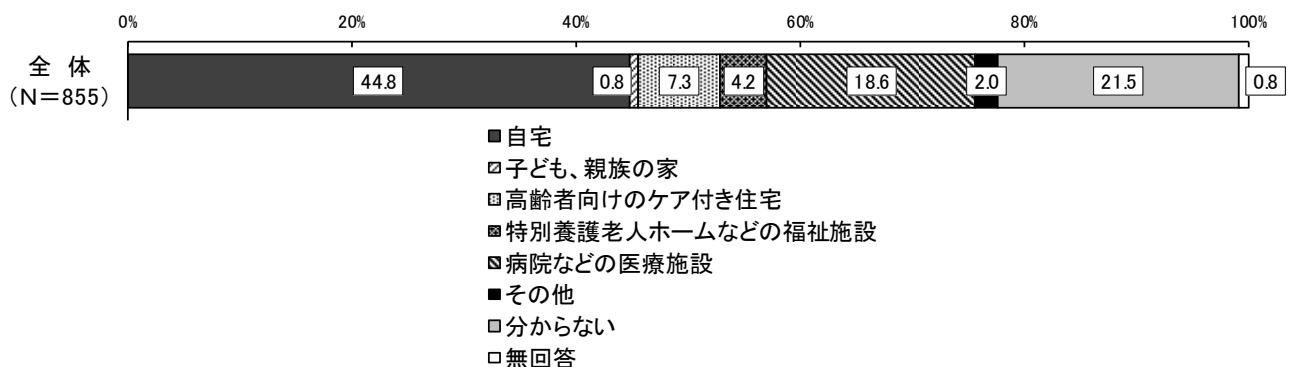
在宅での療養を希望しない又は希望するが難しいと思う理由(問 18 付問2・複数回答(3つまで))



④人生の最期を迎えたい場所（問 19・単一回答）

人生の最期を迎えたい場所は、「自宅」（44.8%）が最も多く、「分からない」（21.5%）、「病院などの医療施設」（18.6%）、「高齢者向けのケア付き住宅」（7.3%）と続いている。

人生の最期を迎えたい場所(問 19・単一回答)

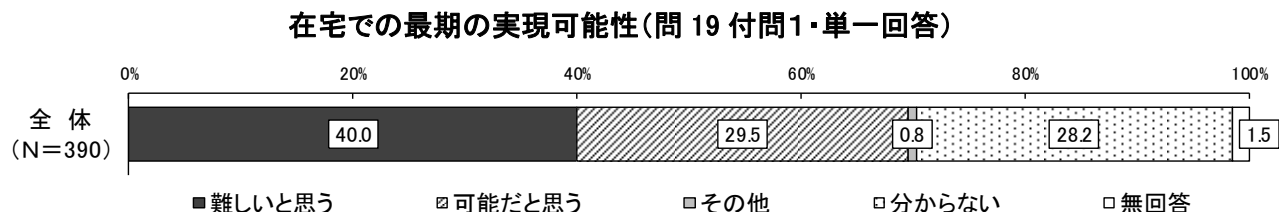


第2章 各調査の結果

2 若年者調査

⑤在宅での最期の実現可能性（問 19 付問 1・単一回答）

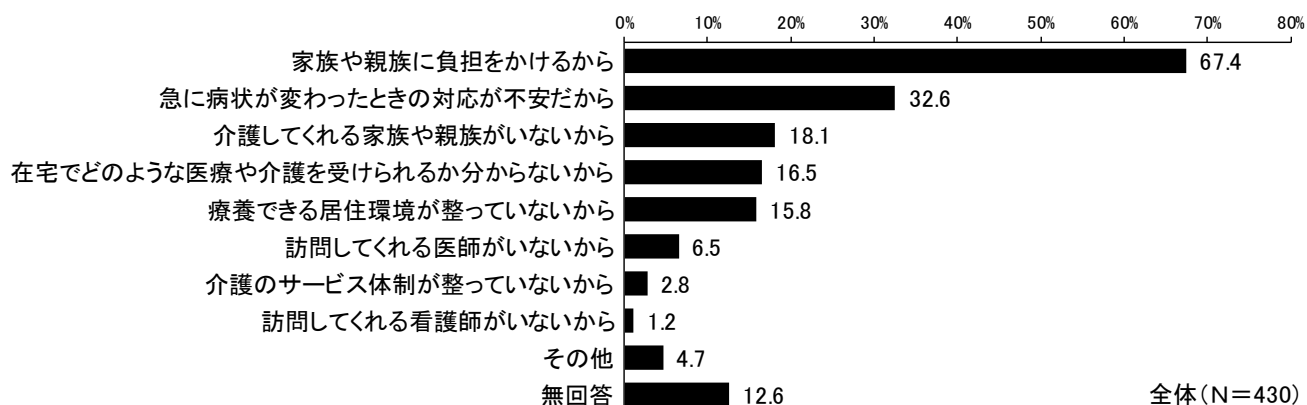
在宅での最期を希望する人（問 19 で「自宅」「子ども、親族の家」と回答した人）の実現可能性は、「難しいと思う」が 40.0%、「可能だと思う」が 29.5%、「分からない」が 28.2%となっている。



⑥在宅での最期を希望しない又は希望するが難しいと思う理由（問 19 付問 2・複数回答（3つまで））

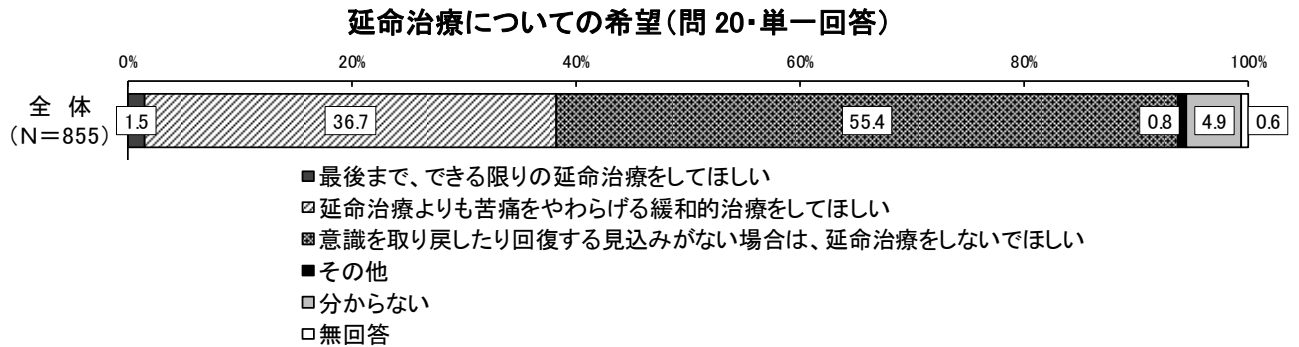
在宅での最期を希望しない又は希望するが難しいと思う人（問 19 で「高齢者向けのケア付き住宅」「特別養護老人ホームなどの福祉施設」「病院などの医療施設」「その他」と回答した人及び問 19 付問 1 で「難しいと思う」と回答した人）の理由は、「家族や親族に負担をかけるから」（67.4%）が最も多く、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」（32.6%）、「介護してくれる家族や親族がいないから」（18.1%）と続いている。

在宅での最期を希望しない又は希望するが難しいと思う理由(問 19 付問2・複数回答(3つまで))



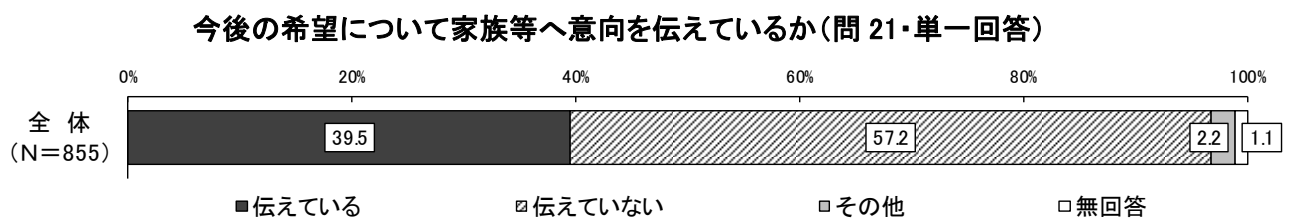
⑦延命治療についての希望（問20・単一回答）

延命治療についての希望は、「意識を取り戻したり回復する見込みがない場合は、延命治療をしないでほしい」（55.4%）が最も多く、「延命治療よりも苦痛をやわらげる緩和的治療をしてほしい」（36.7%）、「分からない」（4.9%）と続いている。



⑧今後の希望（長期療養時や最期の居場所、延命治療の可否など）について家族等へ意向を伝えているか（問21・単一回答）

今後の希望（長期療養時や最期の居場所、延命治療の可否など）について家族等へ意向を伝えているかについては、「伝えている」が39.5%、「伝えていない」が57.2%となっている。



⑨今後の希望についての意向の伝え方（問 21 付問 1・複数回答）

今後の希望についての意向を伝えている人（問 21 で「伝えている」と回答した人）の伝え方は、「口頭で」（97.3%）が最も多く、「私的なメモで」（3.0%）、「終活ノート（エンディングノート）で」（2.1%）、「遺言などで」（1.5%）と続いている。

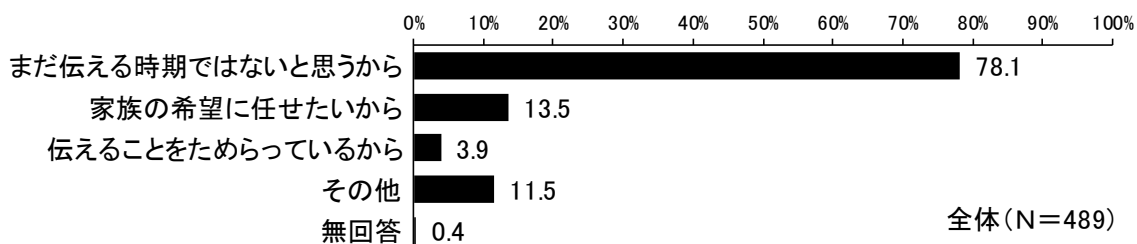
今後の希望についての意向の伝え方(問 21 付問1・複数回答)



⑩今後の希望についての意向を伝えていない理由（問 21 付問 2・複数回答）

今後の希望についての意向を伝えていない人（問 21 で「伝えていない」と回答した人）の理由は、「まだ伝える時期ではないと思うから」（78.1%）が最も多く、「家族の希望に任せたいから」（13.5%）、「伝えることをためらっているから」（3.9%）と続いている。

今後の希望についての意向を伝えていない理由(問 21 付問2・複数回答)

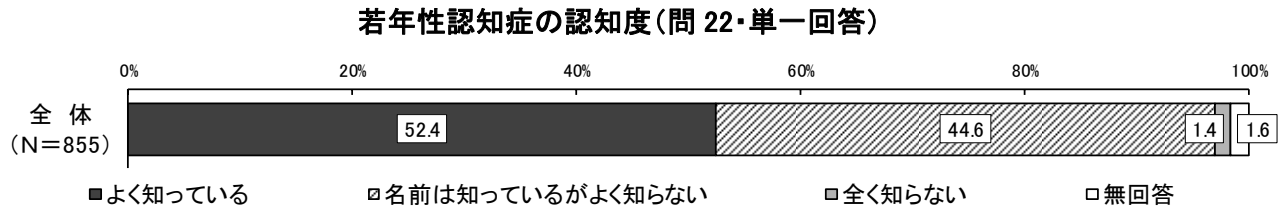


[その他の記述] 伝える人がいない、伝える機会がない、まだ考えていない、など

(6) 認知症

①若年性認知症の認知度 (問 22・単一回答)

若年性認知症の認知度は、「よく知っている」が 52.4%、「名前は知っているがよく知らない」が 44.6%、「全く知らない」が 1.4%となっている。



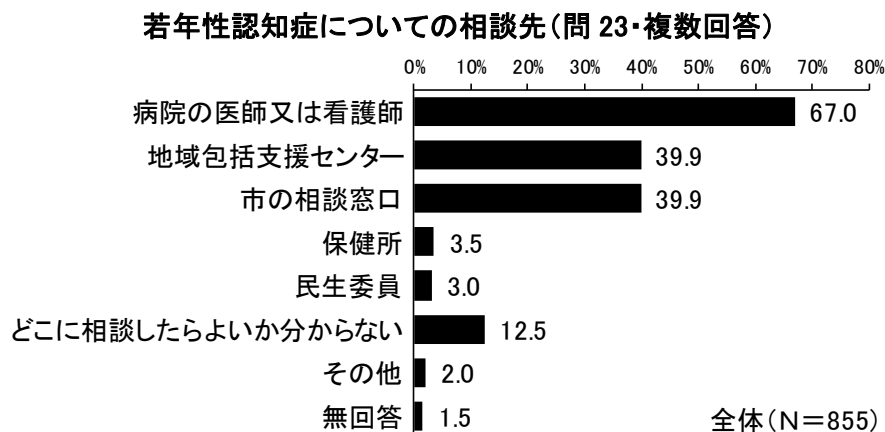
性・年齢別にみると、女性は「よく知っている」が最も多く、男性は「名前は知っているがよく知らない」が最も多くなっている。

【性・年齢別】若年性認知症の認知度(問 22・単一回答)

		(%)			
		よく知っている	名前は知っているがよく知らない	全く知らない	無回答
全体	(N=855)	52.4	44.6	1.4	1.6
男性	55～59歳 (N=217)	44.7	51.6	2.8	0.9
	60～64歳 (N=168)	41.1	56.0	1.8	1.2
女性	55～59歳 (N=239)	60.7	38.9	0.0	0.4
	60～64歳 (N=207)	59.4	35.7	1.4	3.4
無回答	(N=24)	58.3	33.3	0.0	8.3

②若年性認知症についての相談先 (問 23・複数回答)

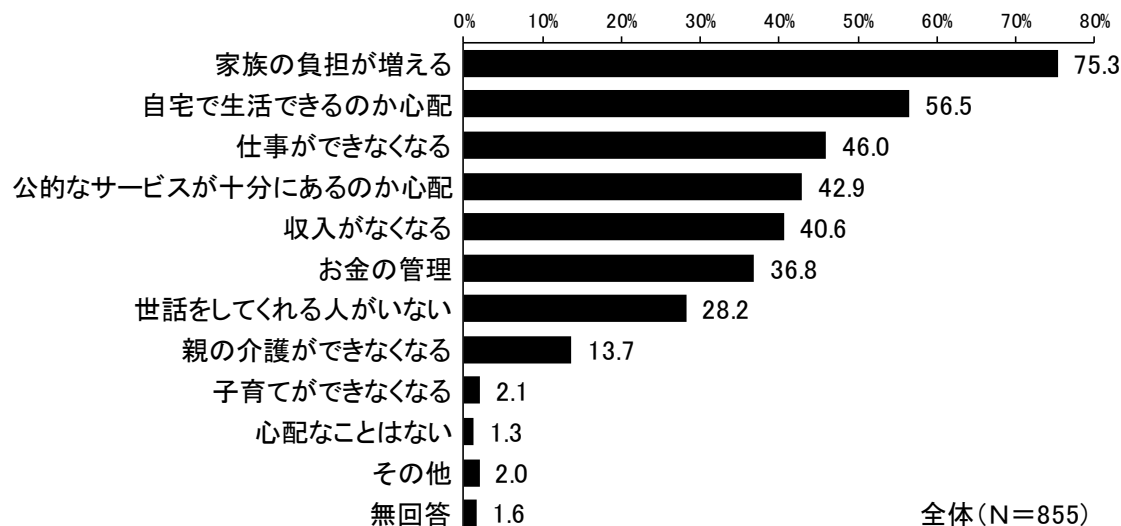
若年性認知症についての相談先は、「病院の医師又は看護師」(67.0%)が最も多く、「地域包括支援センター」及び「市の相談窓口」(ともに 39.9%)と続いている。



③若年性認知症で心配なこと（問 24・複数回答）

若年性認知症で心配なことは、「家族の負担が増える」（75.3%）が最も多く、「自宅で生活できるのか心配」（56.5%）、「仕事ができなくなる」（46.0%）と続いている。

若年性認知症で心配なこと(問 24・複数回答)



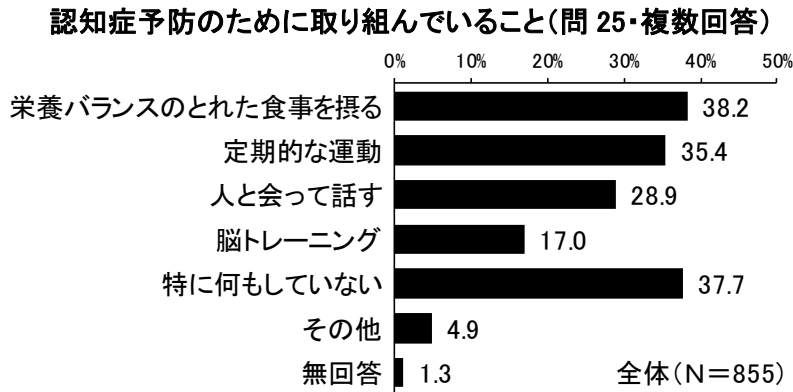
性・年齢別では、いずれも「家族の負担が増える」が最も多いものの、男女ともに 55～59 歳では「仕事ができなくなる」や「収入がなくなる」が上の世代より多く、女性の 55～59 歳では「親の介護ができなくなる」（21.3%）も他に比べ多くなっている。

【性・年齢別】若年性認知症で心配なこと(問 24・複数回答)

		家族の負担が増える	世話をしてくれる人がいない	公的なサービスが十分にあるのか心配	自宅で生活できるのか心配	仕事ができなくなる	収入がなくなる	子育てができなくなる	親の介護ができなくなる	お金の管理	心配なことはない	その他	無回答
全体 (N=855)		75.3	28.2	42.9	56.5	46.0	40.6	2.1	13.7	36.8	1.3	2.0	1.6
男性	55～59歳 (N=217)	72.8	28.1	42.4	50.2	56.7	47.5	1.8	10.6	40.6	0.5	1.4	0.9
	60～64歳 (N=168)	76.2	26.8	39.3	54.8	44.0	32.7	1.2	7.7	22.6	3.0	3.6	1.8
女性	55～59歳 (N=239)	77.4	32.2	44.4	58.2	52.3	49.0	3.8	21.3	44.4	1.3	0.4	0.8
	60～64歳 (N=207)	76.8	27.1	47.8	64.3	30.9	30.4	1.4	14.5	38.2	1.0	2.4	1.9
無回答 (N=24)		58.3	8.3	16.7	41.7	29.2	37.5	0.0	0.0	16.7	0.0	8.3	12.5

④認知症予防のために取り組んでいること（問 25・複数回答）

認知症予防のために取り組んでいることは、「栄養バランスのとれた食事を摂る」（38.2%）が最も多く、「定期的な運動」（35.4%）、「人と会って話す」（28.9%）と続いている。



性別にみると、男性は「特に何もしていない」（47.6%）が最も多く、女性は「栄養バランスのとれた食事を摂る」（43.2%）、「人と会って話す」（38.6%）、「定期的な運動」（36.2%）などに取り組む人がやや多くなっている。

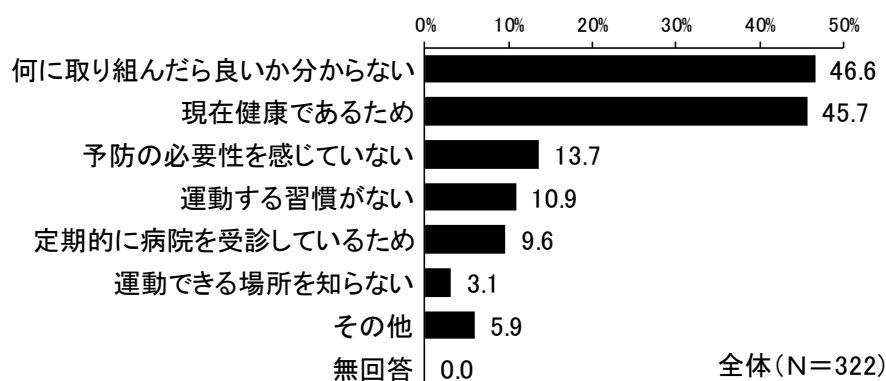
【性別】認知症予防のために取り組んでいること(問 25・複数回答) (%)

	運定期的 な	をれん栄 摂たス養 る食のバ 事とラ	ニ脳 ント グレ ー	て人 話と す会 っ	いし特 てに い何 なも	そ の 他	無 回 答
全体 (N=855)	35.4	38.2	17.0	28.9	37.7	4.9	1.3
男性 (N=393)	34.6	32.3	13.5	17.6	47.6	2.0	1.3
女性 (N=456)	36.2	43.2	20.2	38.6	29.4	7.5	1.1
無回答 (N=6)	33.3	50.0	0.0	33.3	16.7	0.0	16.7

⑤認知症予防に取り組まない理由（問 25 付問・複数回答）

認知症予防に取り組んでいない人（問 25 で「特に何もしていない」と回答した人）の理由は、「何に取り組んだら良いか分からない」（46.6%）が最も多く、「現在健康であるため」（45.7%）、「予防の必要性を感じていない」（13.7%）と続いている。

認知症予防に取り組まない理由(問 25 付問・複数回答)

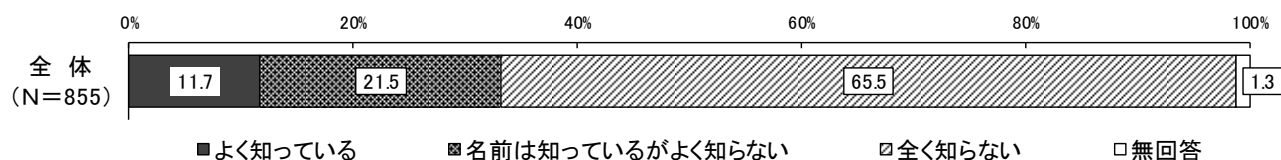


[その他の記述] 仕事で多忙、必要性がない、効果があるのか疑問、など

⑥認知症サポーターの認知度（問 26・単一回答）

認知症サポーターの認知度は、「よく知っている」が 11.7%、「名前は知っているがよく知らない」が 21.5%、「全く知らない」が 65.5%となっている。

認知症サポーターの認知度(問 26・単一回答)



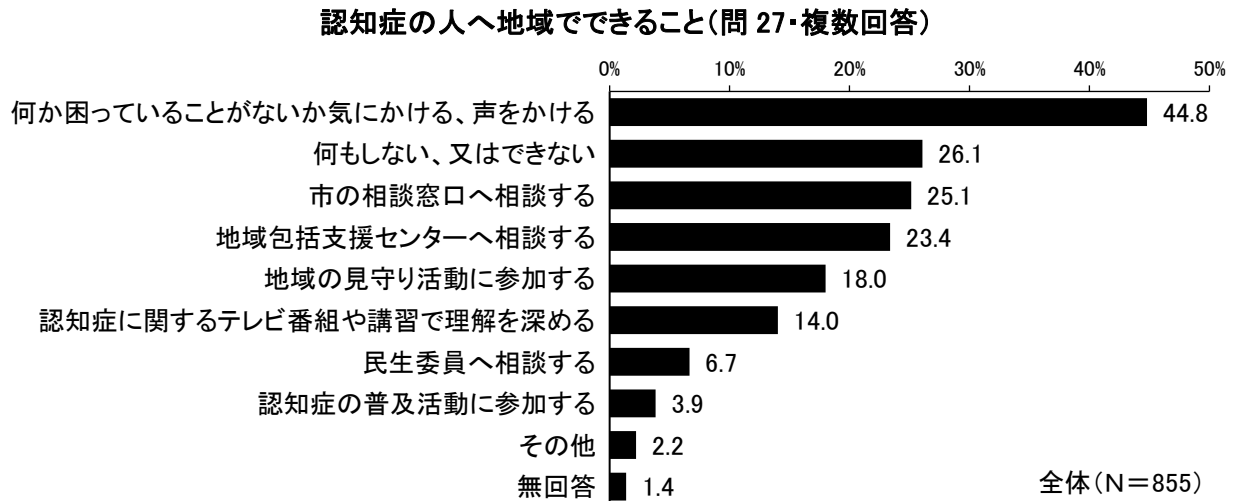
性別では、男女ともに「全く知らない」が最も多いものの、女性では「名前は知っているがよく知らない」（26.8%）や「よく知っている」（18.0%）も男性に比べ多くなっている。

【性別】認知症サポーターの認知度(問 26・単一回答)

		認知度 (%)			
		よく知っている	名前は知っているがよく知らない	全く知らない	無回答
全体	(N=855)	11.7	21.5	65.5	1.3
男性	(N=393)	4.6	15.8	78.4	1.3
女性	(N=456)	18.0	26.8	54.2	1.1
無回答	(N=6)	0.0	0.0	83.3	16.7

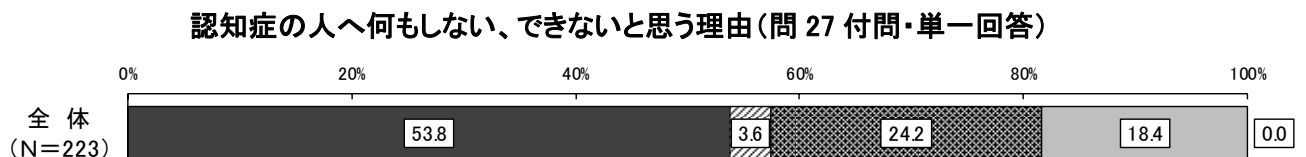
⑦認知症の人へ地域でできること（問 27・複数回答）

認知症の人へ地域でできることは、「何か困っていることがないか気にかける、声をかける」（44.8%）が最も多く、「何もしない、又はできない」（26.1%）、「市の相談窓口へ相談する」（25.1%）、「地域包括支援センターへ相談する」（23.4%）と続いている。



⑧認知症の人へ何もしない、できないと思う理由（問 27 付問・単一回答）

認知症の人へ何もしない、できないと思う人（問 27 で「何もしない、又はできない」と回答した人）の理由は、「どのように接したらよいか分からないため」（53.8%）が最も多く、「自分にできることはないと思うため」（24.2%）、「認知症のことをよく知らないため」（3.6%）と続いている。

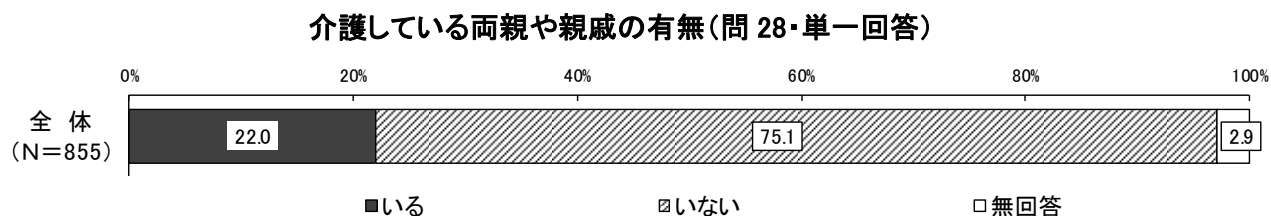


■どのように接したらよいか分からないため □認知症のことをよく知らないため ■自分にできることはないと思うため □その他 □無回答

(7) 介護の経験

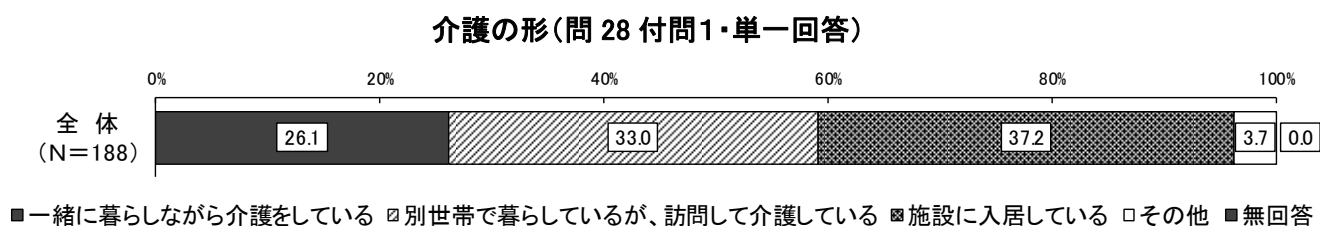
①介護している両親や親戚の有無（問 28・単一回答）

介護している両親や親戚の有無は、「いる」が 22.0%、「いない」が 75.1%となっている。



②介護の形（問 28 付問 1・単一回答）

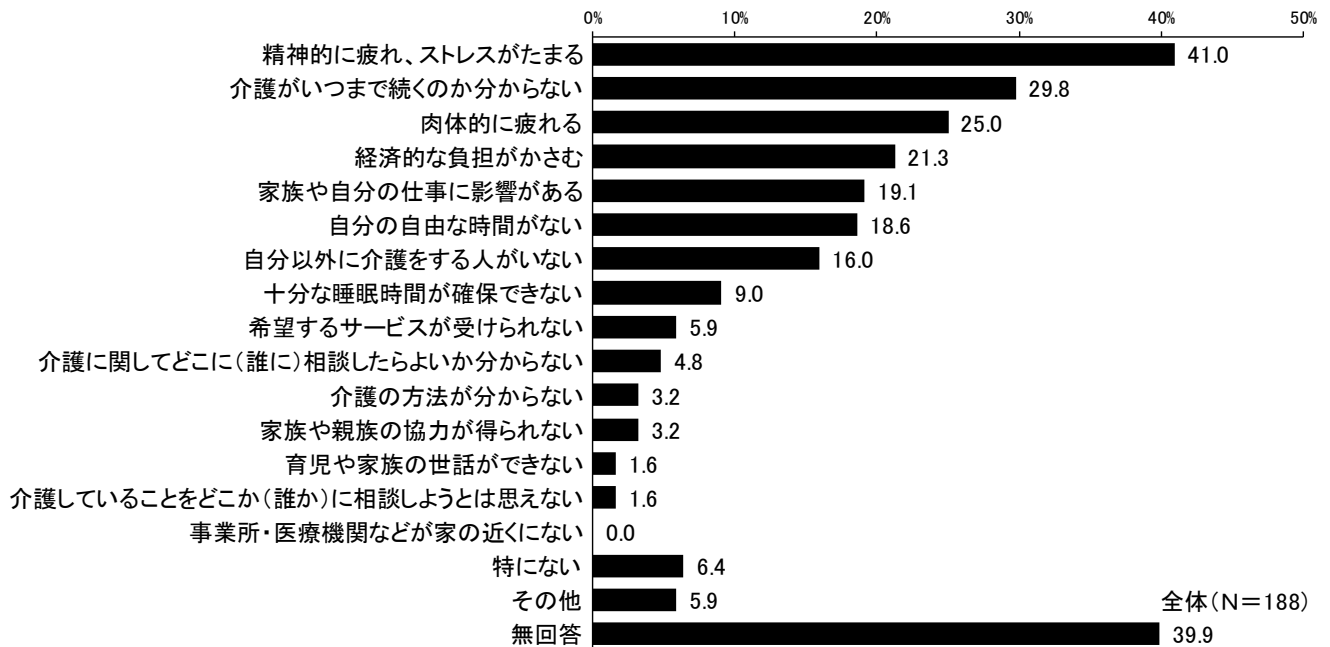
問 28 で介護している両親や親戚が「いる」と回答した人の介護の形は、「施設に入居している」(37.2%)が最も多く、「別世帯で暮らしているが、訪問して介護している」(33.0%)、「一緒に暮らしながら介護をしている」(26.1%)と続いている。



③介護をする上で困っていること（問 28 付問 2・複数回答）

問 28 で介護している両親や親戚が「いる」と回答した人の困っていることは、「精神的に疲れ、ストレスがたまる」（41.0%）が最も多く、「介護がいつまで続くのか分からない」（29.8%）、「肉体的に疲れる」（25.0%）と続いている。

介護をする上で困っていること(問 28 付問2・複数回答)



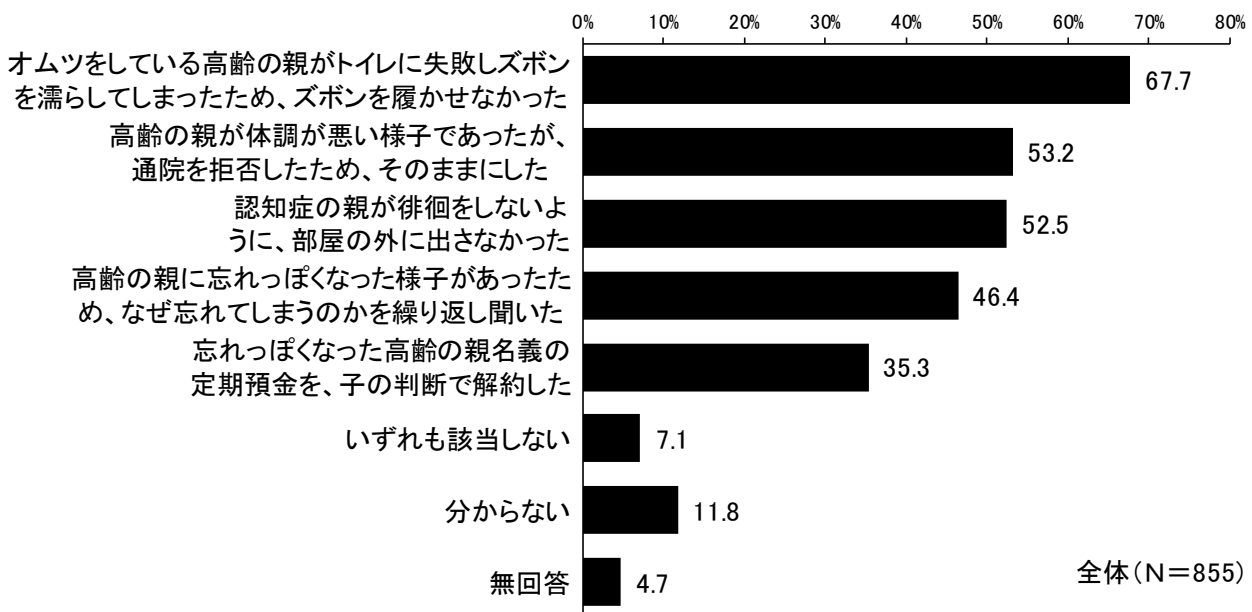
〔その他の記述〕 遠距離で通うのが大変、回復したがいつまた介護が必要になるか心配、など

(8) 高齢者虐待

① 高齢者虐待へつながる可能性があると思うもの (問 29・複数回答)

高齢者虐待へつながる可能性があると思うものは、「オムツをしている高齢の親がトイレに失敗しズボンを濡らしてしまったため、ズボンを履かせなかった」(67.7%)が最も多く、「高齢の親が体調が悪い様子であったが、通院を拒否したため、そのままにした」(53.2%)、「認知症の親が徘徊をしないように、部屋の外に出さなかった」(52.5%)と続いている。

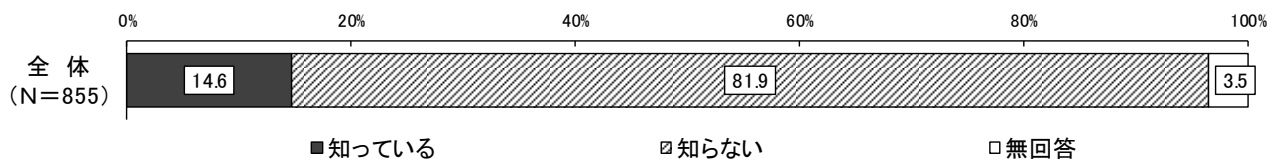
高齢者虐待へつながる可能性があると思うもの(問 29・複数回答)



② 高齢者虐待の通報先の認知 (問 30・単一回答)

高齢者虐待の通報先の認知は、「知っている」が14.6%、「知らない」が81.9%となっている。

高齢者虐待の通報先の認知(問 30・単一回答)

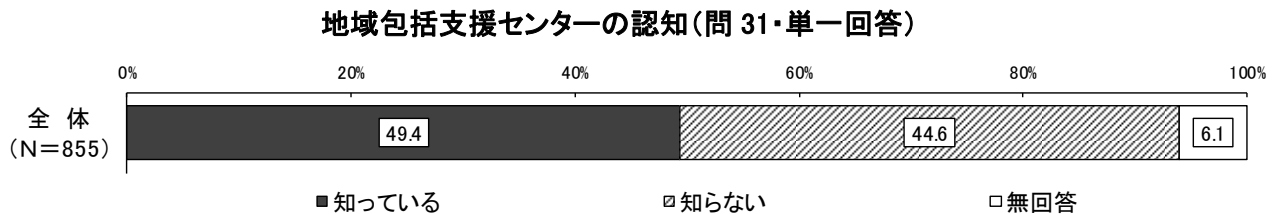


なお、「知っている」と回答した人が挙げた具体的な相談先は、「地域包括支援センター」「市役所」「警察」などとなっている。

(9) 高齢者を支える仕組み

①地域包括支援センターの認知（問31・単一回答）

地域包括支援センターの認知は、「知っている」が49.4%、「知らない」が44.6%となっている。



②自分の担当センターの認知（問31付問・単一回答）

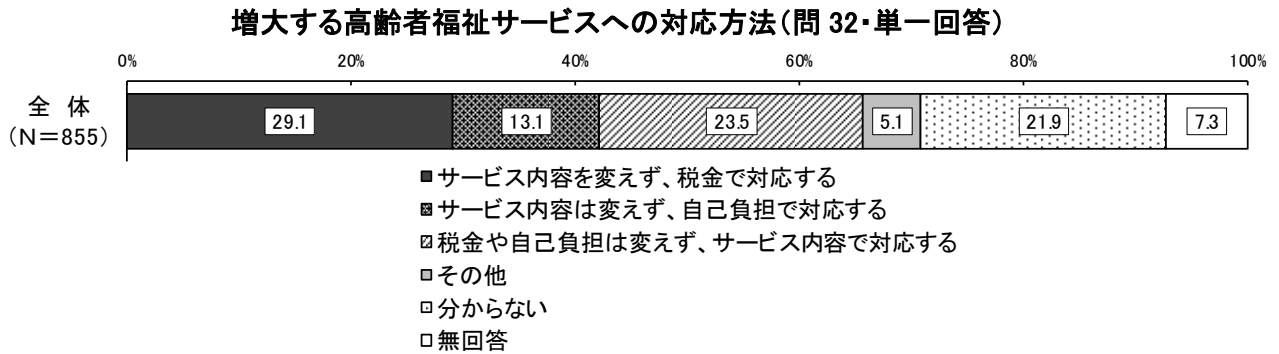
問31で地域包括支援センターを「知っている」と回答した人に自分の担当センターを伺ったところ、正しく自分の住む地区の地域包括支援センターを答えた人は、「泉町地域包括支援センター」（78.0%）が最も多く、「向台町地域包括支援センター」（75.8%）、「富士町地域包括支援センター」（71.2%）と続いている。

【地域包括支援センター地区別】自分の担当センターの認知(問31付問・単一回答)

回答者の居住地区	自分の担当センター									
	田無町地域包括支援センター	泉町地域包括支援センター	新町地域包括支援センター	向台町地域包括支援センター	西原町地域包括支援センター	緑町地域包括支援センター	富士町地域包括支援センター	栄町地域包括支援センター	知らない	無回答
全体 (N=422)	10.2	8.5	7.1	12.6	7.3	8.8	10.2	6.4	28.0	0.9
田無町地域包括支援センター地区 (N=50)	66.0	4.0	2.0	2.0	0.0	0.0	2.0	0.0	24.0	0.0
泉町地域包括支援センター地区 (N=41)	0.0	78.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.0	0.0
新町地域包括支援センター地区 (N=56)	5.4	0.0	51.8	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	41.1	0.0
向台町地域包括支援センター地区 (N=66)	3.0	0.0	0.0	75.8	1.5	0.0	0.0	0.0	18.2	1.5
西原町地域包括支援センター地区 (N=48)	4.2	0.0	0.0	2.1	62.5	0.0	0.0	0.0	29.2	2.1
緑町地域包括支援センター地区 (N=58)	5.2	0.0	0.0	0.0	0.0	63.8	0.0	0.0	27.6	3.4
富士町地域包括支援センター地区 (N=59)	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	71.2	0.0	25.4	0.0
栄町地域包括支援センター地区 (N=44)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	61.4	38.6	0.0

③増大する高齢者福祉サービスへの対応方法（問 32・単一回答）

増大する高齢者福祉サービスへの対応方法は、「サービス内容を変えず、税金で対応する」（29.1%）が最も多く、「税金や自己負担は変えず、サービス内容で対応する」（23.5%）、「分からない」（21.9%）、「サービス内容を変えず、自己負担で対応する」（13.1%）と続いている。



④今後地域で暮らしていくために必要だと思うこと（問 33・複数回答（3つまで））

今後地域で暮らしていくために必要だと思うことは、「近所とのつながり」及び「暮らしに関する困りごとの相談ができる場」（ともに 34.2%）が最も多く、「家族、親族とのつながり」（30.5%）、「病気やケガなどの医療の相談ができる場」（28.8%）と続いている。

